

IV-137 都市空間におけるドラマの演劇的演出手法に関する研究

東京工業大学大学院 社会開発工学専攻 学生会員 富田 英裕

1. 研究の背景

現代人は"ドラマ"に慣れ親しんでいる。映画、演劇、TVをはじめ絵本やコミックに至るまで実に様々なメディアが我々に日々"ドラマ"を供給している今日、ドラマ的なものの捉え方は我々現代人のひとつの強い傾向になっていると考えられる。景観というものが単に視対象の問題としてだけではなく、観る者の精神現象として論じられる時、人々の意識を誘引する"人間のドラマ"を都市から抽出する事は都市空間を楽しめるものにする上で有効な手段である。ところがこれまでの景観論は主に静止した構図として空間を捉え、ともすると空間を有機的に完成させる主役となるはずの"人"の存在が無視されがちであった。"人の風景"の空間に及ぼす効果が考慮されていない空間は、単独では美しく眺められても、そこに入り込んだ"人"がその調和を乱してしまうという本末転倒した事態を生みかねない。"人のドラマ"を演出する手法の体系である演劇を都市に持ち込むことはこの点に於て意味があると思われる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、都市空間における人間の活動を"ドラマ"として捉え、人間を含む景観にある種の生き生きとしたまとまりを作るための手法を、演劇の演出手法から抽出することである。

3. 都市の演劇的モデル

(1) 都市空間における虚構(ドラマ)と現実

都市は人間の毎日の活動が機能的に行なえるよう構成され形づくられた巨大な人工物である。その人工的な環境を楽しむ方法とはどのようなものであろうか。都市空間の中で、ある行動を楽しむ、情景を楽しむといった行為は、一種の"虚構"を楽しむ行為といえる。街を歩く人々、バスを待つ人々の情景などといったものはもともと人を楽しませる種類のものではない。別の本来の目的が彼等には存在するのである。ところがそれらの日常的情景の中からある空間的手段を用いて一部分を抜き出し演出を加えたとき、それは観る者の興味を引き、楽しませることができるものとなる。そうなった一部分はもはや最初の現実の風景とは一線を画している。それはひとつの"虚構"と化したからである。

(2) 劇場・舞台装置・ドラマ

都市に生活する人々が自らの想像力の助けを借りながら空間を積極的に楽しむことのできる次元としての"虚構"を都市内に生み出すために演劇的モデルを設定する。

①劇場 虚構の生み出される場所(舞台空間)とそれを眺める場所(客席空間)を含む都市空間。

②舞台装置 虚構を構成し盛り上げる空間的御膳立て。

③ドラマ 演劇的演出手法によって都市の現実から抜き出された人間の活動。

4. 演劇的演出手法

都市空間における演劇的演出手法を、

1) 劇場レベル 都市内に劇場的空間を生み出す

2) 舞台装置レベル 劇場におけるドラマを際立たせ盛り上げる

以上2つのレベルに分けて分析していく。

(1) 劇場レベルの手法

実際の劇場の空間的条件を分析整理し、都市空間にあてはめることにより、表-1を得た。

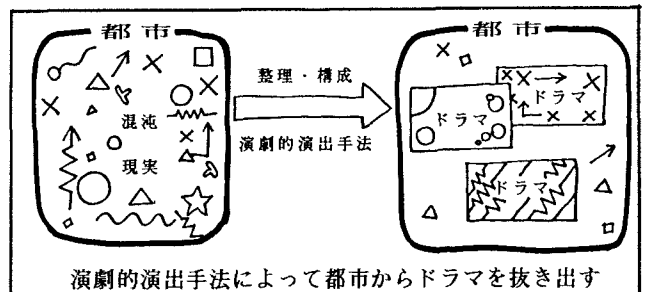


表-1 都市における劇場空間の構成手法のまとめ

隔たりに 舞台と客席の間に 遮るものがない空間的 距離をおくことによっ て、まとまりとしての 舞台面を見通せるよう にする	レベル差	床の高さを揃えることにより、舞台と客席を分ける。	吹き抜け空間 ・バルコニー ・階段 etc.
	踏み込めない空間	大きな溝や水面など、お互い踏み込めない空間を間に挟むことにより舞台と客席を分ける。	駅のホーム ・水辺 ・溝 etc.
抜き出し 都市空間における 日常的風景の一部分に あるほどこを行ない ギャップを作ることに よって、舞台と客席を 生み出す	アプロセニウムアーチ	構造上の大きな開口部によってある情景を採取し、舞台と客席を生み出す。	開口部 ・ガラス窓 ・ビルの玄関部分 etc.
	照明	照明によってある情景を浮かび上がらせ、舞台と客席を生み出す。	街灯の下 ・ビルの軒下部分 ・屋内のスポット照明 etc.

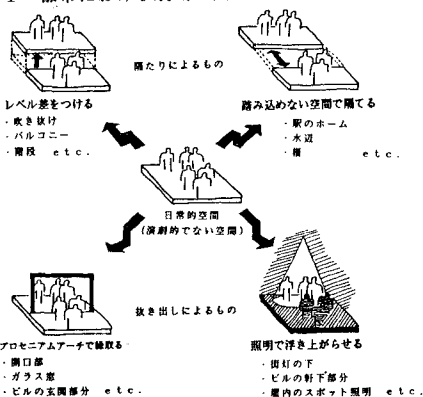


表-2 舞台装置のデザイン手法のまとめ

(2) 舞台装置レベルの手法

都市空間における人間の行動の混沌性を整理し秩序づけ、ドラマ性を際立てる手法を舞台装置に求める。

舞台装置とは作品のテーマが要求する環境を観客の視対象としての舞台上に実現するものである。テーマを整理し表現していく過程において舞台装置独特のデザイン手法が存在する。表-2に広いジャンルからの舞台装置に取材し抽出した4つの独特なデザイン手法を示す。

デザイン手法	テーマの提示	細かい手法	効果
省略とシンボライズ	不必要な要素を削ぎ落とし純化されたコアや“とっかかり”のみを残す	無駄 不必要なものを省き必要最低限のものを残していく 意図的省略 テーマに関わる要素(キーワード)を舞台装置の中に入らなく	テーマの要点を的確に押さえることによってシャープな表現ができる
隠す(情報の限定)	不必要な部分を何らかの方法で覆い隠すまたは音、色、形などの情報を限定する	見切り 観客から演出上見えにくいものを露出させ隠す 切り取り 壁にあげた窓などによって、見えない色を背景から切り取る	観客の想像力をうまく刺激することによってテーマをより強めることができる
デフォルメする	現実のものを変形、または誇張して表現する	単純化 単純な図形的構成によってデザインを表現する	テーマをより直感的にインパクト強く訴えることができる
対比でみせる	2つ(複数)の要素を舞台空間の中に対比させて提示する	並列対比 2種類(多数量)の要素を対等に並べて提示する 対比対比 2種類(多数量)の要素を階層的(上下)に配置して提示する	対比でお互いの特徴を強調合うことによってドラマの構造を構造的に明快に提示することができる

表-3 都市空間におけるドラマとその舞台

5. 都市空間におけるドラマのテーマと舞台

実際の都市空間においてドラマとなりうる人間の活動をその内容によって分類し、舞台となる空間をあげ、観せかたの手法をまとめた。その結果を表-3に示す。

6. 結論

本研究を通じて次の結論を得た。

- 1) 都市における劇場的空間の構成手法を分類し提示した。
- 2) 演劇における舞台装置の効果とそのデザイン手法を分類し都市におけるドラマ(人間の活動)を演出するための空間構成のヒントを提示した。
- 3) 実際の都市空間からあげた実例を、提示した手法によって説明し、その効果と問題点を指摘した。

ドラマとして抜き出された人間の活動	舞 台	観せ方の手法
切り取られた移動 引き取られた人々の行動の連続性を生かす	空中連絡通路・歩道橋 ・エスカレーターの地下 ・階段・エスカレーター	人々が歩行する通路をガラス窓や柱、壁などで取り囲む ・歩行の方向性や動きを生かす ・歩行の横断面を露出させる
出と入れ 人々の登場と退場の様子	・出入り口 ・ビルの玄関 ・階段・エスカレーター ・エントランスホール	・階段 エスカレーターの全体 ・出入り口の扉にレベル差をつける
場面のコラージュ 人々の活動の個々の場面の連続	・広場 ・吹き抜け ・サングラス・ガーデン ・パトリウム	・高台やバルコニーを露出させて人々の活動の連続性を強調し、人々の活動の場を露出させる
ルールを持つ動き 人々がルールに従って行動する様子	・公園 ・広場	・樹木によって周囲の視界を遮り、人々の活動の場を露出させて、人々の活動の場を露出させる
繰り返しのある動き 人々の活動の連続性を生かす	・循環路の出口 ・交差点の信号待ち	・循環路 道路など踏み込めない空間によって人々の活動の場を露出させる
主客の転換 人々がイベントなどを観る様子	・イベント広場 ・モニタースクリーン ・バルコニー	・見物するための場所にはレベル差をつけ、その見物の様子を観せる
聞こえない会話 人々が会話する様子	・レストラン ・喫茶店	・ガラス窓などによって音(声)の情報を遮断する
縁取られた場面 人々がサングラスや帽子を身につける様子、人々の活動の場を露出させる	・循環路のホーム ・ラッシュ	・大きなガラス窓や柱、壁などによって場面を露出させる